2013 年　岐阜県立国際園芸アカデミー　海外視察研修　1 日目（5 月 20 日）

09:00～14:00　　キューケンホフ公園

15:00～16:00　　ライデン大学　植物園

　世界でも最も美しいと公園の一つに名を連ねるキュウーケンホフ公園を今シーズン開園期間最終日に訪問した。

　チューリップを中心とした球根植物を中心に庭が造られているため、一年で 8 週間しか開園しないことも、魅力の一つになっている。今年は欧州が歴史的な大寒波に襲われたこともあり、例年では最終日はほとんどのチューリップが終わっているのであるが、今年は最終日であったもののピークの状態で観賞できた。

　公園の樹木や池や水路と花壇の植物が呼応する風景は、いわゆる息をのむ美しさであった。

　日本のチューリップを中心に見せるガーデンの開催期間が GW 前後の 2 週間前後と短いのに対して、キューケンホフ公園は 8 週間も開催できるのは単に気候の違いだけではない。隠れた工夫や蓄積された管理技術があるに違いない。

キューケンホフ公園　正面玄関

チューリップの美しい植栽

　学生はそれぞれのテーマを持ち、海外研修に参加している。自分のテーマに関する英語での質問などは出発前に考えてあるものの、会話の中で思わぬ展開にしどろもどろする場面が多かった。しかし、これも良い経験で自分の思いを身振り手振りでコミュニケーションをとる体験は、きっと忘れることのない思い出となり、今後の自信につながり、海外に目を向けるきっかけになるのではないだろうか。

英語で必死に質問する学生

　シーボルトが日本から持ち帰った植物を展示するライデン大学植物園。

植物園内を川が流れ、美しい景観の中にある植物園は日本の植物園とは次元が違う。園内は所々に日本語の表記があり、日本との関係の深さが窺える。学生にとっては、400 年前のシーボルトが日本の植物をヨーロッパに導入した功績について考えるきっかけとなった。

ライデン大学植物園

2013 年　岐阜県立国際園芸アカデミー　海外視察研修　2 日目（5 月 21 日）	
07:30～09:45　　アアルメーア市場 10:00～11:00　　ビレロ（ロボットを活用した大規模鉢物生産農場） 11:30～13:30　　ヘットオースティン（オランダ最大のガーデンセンター） 13:45～14:30　　ヒップ（元切花輸出業者が起業したアジサイの切花生産農場） 15:00～15:45　　PTMD（ハイセンスなアイテムを揃える園芸専門の資材業者）	
世界最大の花市場であるフローラホランド（通称：アアルメーア市場）を訪問した。この施設は以前に世界一広い建物に登録されたことがあるくらい広く約７５万㎡ある。この市場から全世界に向けて花が配送される。グローバル化対応のため、世界一の組織も変革を求められている。それらの動きを最新の情報として職員の方から直接説明していただいた。	 職員から説明を受ける学生
ビレロは鉢物を中心に多品目の鉢物を生産している。数ある農場の中で、挿し木ロボットでバラを生産する大規模生産農場を訪問した。画像処理技術で親木の芽を判別しそのわずか上を切り、次々と挿し木を行うロボットを視察した。親木のどこを切りどこを挿し芽として使うかは、経験が必要で本来は人間が行う作業。機械の作業の下準備を人間が行っていた。	 ロボットが次々と挿し木をしていく
オランダの最大の規模を誇るガーデンセンターヘットオースティンを視察した。建物の広さは５万㎡で、職員は施設内を自転車で移動する。あまりの広さに日本と比較のしようがないほどであった。平日であったが、お客様が少ないのも気になった。今年のオランダは季節はずれの寒波に襲われており、鉢物が動き出すのが遅いと思われる。	 オランダ最大級のガーデンセンター
切花の生産者 HIP を訪問した。ここの経営者は元切花の輸出業者に勤務していたこともあり、オランダでは生産規模が小さい方であるが、売り先を確保した先進的な経営をしている。HP や会社パンフレットなどはとても斬新なデザインで販促に力を入れている。輸出業者に勤めていた頃は宣伝担当であったとのこと。今は、オランダのアジサイの生産者で組織されるアジサイ協会で宣伝部長を務めている。	 ＨＩＰ経営者と記念撮影

2013 年　岐阜県立国際園芸アカデミー　海外視察研修　3 日目（5 月 22 日）	
10:00～11:30　大英博物館 13:15～14:30　McQeen（ブーケデモンストレーション、経営概要説明） 15:15～16:15　ｵｰﾌﾟﾝｶﾞｰﾃﾞﾝ（ノッティンヒル地区のｵｰﾌﾟﾝｶﾞｰﾃﾞﾝ） 16:30～17:15　ホランドパーク（ﾛﾝﾄﾞﾝの自然公園） 17:30～18:45　チャーチルアーム（壁面緑化が美しいパブ）	
ロンドンの有名店 McQeen でのブーケのデモンストレーションを受講した。ブーケのテーマは「フューネラル」このテーマは事前にリクエストしておいた。講師のダンカン氏は「ユニークなテーマでとても興味深い」として、ロンドン、あるいは McQeen におけるフューネルの考え方を説明しながら、デモンストレーションを行った。	 デモンストレーションの様子
ロンドンの高級住宅街でオープンガーデンを行っている Amabel Lindsay 邸を訪問した。ここのオーナーの祖父はもと駐日大使ということもあり、日本からの訪問に非常に好意的であった。 庭のデザイナーの方から、庭造りのコンセプトなどを直接聞くことができた。また、学生からの質問にひとつずつ丁寧に答えて頂いた。	 オープンガーデンでの説明
ロンドンの都市公園で有名なホランドパークを訪問した。ケンジントンガーデンなどの整形式庭園と違い、高大な森と自然を利用した自然公園である。 この公園は市民の憩いの場になっていることはもちろんのこと、中には数々のガーデンが造られており、この中に日本庭園もあった。京都の造園関係者が施工しており、しっかりと管理されていた。	 広大なホランドパーク
ノッティングヒル地区でひときわ壁面緑化が美しいチャーチルアームを訪問した。このパブは壁面緑化のデザインで過去にいくつもの賞を受賞している。チャーチル元首相のゆかりのパブらしく店内の雰囲気も非常に凝っており、イギリスの伝統を良く表現している。歴史的な寒波の影響で花の進みが遅く、壁面は少し寂しかったのが残念であった。	\ チャーチルアーム正面

2013 年　岐阜県立国際園芸アカデミー　海外視察研修　4 日目（5 月 23 日）

07:45～13:00　　チェルシーフラワーショウ

15:15～17:30　　ハンプトンコートパレス

　チェルシーフラワーショウは英国で最も権威のあるフラワーショウである。今年は記念すべき 100 周年であったため、それぞれのイベントがよりスケールアップされて例年より見どころの多いものとなった。そのため、一般公開初日から多くの人が訪れ大盛況であった。

　チェルシーフラワーショウでは毎年、世界中のガーデナーが腕を競い合うコンペティション部門がいくつか開催されている。今年の ArtisanGarden 部門で最優秀賞を受賞した石原和幸氏から、自身のガーデンや他の特徴的なガーデンの解説をしていただいた。世界のトップガーデナーの作品の数々を目の前にした説明は学生にとって貴重な経験になったことは間違いなく、今後の学生生活にも大きな弾みがつくであろう。

コンテストの美しいディスプレー

石原氏によるガーデントーク

　ハンプトン・コート宮殿は英国ロンドン南西部、リッチモンド・アポン・テムズ・ロンドン特別区（サリー州）にある旧王宮である。ヘンリー8 世時代の王宮としてゆかりが深く、歴代君主の居城ともなってきた。

　現在は主要な観光名所として一般公開されている。200 年余りに及ぶ英国の宮廷生活、政治、歴史の中心舞台を再現するテーマパークとなっており、歴史的価値は高い。また、毎年開催される「ハンプトン・コート宮殿フラワー・ショー」は、世界最大規模の花の祭典として有名である。

　プリヴィーガーデンと呼ばれる広い庭園やボーダー花壇の植栽などは、イギリスの整形式庭園を学習する上での格好の教材である。学生達はカメラやメモを手にして忙しく園内を駆けめぐっていた。

美しい並木道

広大な整形式庭園

2013 年　岐阜県立国際園芸アカデミー　海外視察研修　5 日目（5 月 24 日）

10:00～11:30　　キューガーデン

A 班	B 班
14:30～15:30　Zitaflower（生花店）	14:00～14:50　リージェントパーク
15:45～16:15　Kew Gardener（園芸店）	15:15～16:00　ケンジントンガーデン

園芸業界に携る者であれば、必ず一度は訪れたいウィズレーガーデン。また、何度も訪れた者でも行くたびに新たな発見や感動がある。それは植物に対する真摯な姿勢と園芸の普及に対する変わらない熱意があるからである。学生達は図鑑でしか見たことのない植物や長年管理された大木を見て感動していた。この感動を今後に生かすことが重要だ。

パームハウス前

特に最近のキューガーデンの子供向けのソフトやハードの充実ぶりは驚かされる。写真は植物をより良く知ってもらうために五感に訴えている。見る、聞くだけでなく、味覚や嗅覚、そして触覚に訴える装置がいたるところに配置されていた。このような子供達の興味や関心を五感に訴える植物園の環境教育は、とても効果的と感じた。学生は大いに参考になったと思う。

匂いに訴える教材

キューガーデン近くにあるデザインスクールも併せ持つジータフラワーを訪問した。この生花店では海外中からデザインを学ぶ者が研修していた。訪問時は中東からきた男性と韓国からきた女性がそれぞれのデザインを制作していた。

マネージャーの方からジータのデザインに関する考え方や経営方針などを伺うことが出来た。

トップデザイナーからの説明

ロンドン市内のロイヤルパークのうち代表的な２つの公園リージェントパークとケンジントンガーデンズを訪れた。日本の都市公園とはスケールが桁違いであるが隅々まで管理が行き届いていることに感心した。雨天のため公園利用者が少なかったため、残念ながら利用状況を把握することができなかったが、故ダイアナ妃を記念した幼児用プレイパークの守衛人が、通常親子連れしか入れないエリアに特別入れてくれたため施設を調査することができた。

管理の行き届いている都市公園

2013 年　岐阜県立国際園芸アカデミー　海外視察研修　6 日目（5 月 25 日）	
09:00～15:30　　ウィズレーガーデン	
ウィズレーガーデンはロンドン南西郊外、ウォーキングにある英国人に最も愛されている庭である。エリザベス女王自らが総裁を務める英国王立園芸協会（ＲＨＳ）運営の庭園の１つで、東の横綱がキューガーデンであれば西の横綱がウィズレーガーデンである。 園芸学校も付属で設置されており、ここで園芸を学んだ研修生が世界中に散らばり園芸文化を広めている。	 ウィズレーガーデン本館
ウィズレーガーデン内にあるガーデンセンター。ここをウィズレーではプラントセンターを呼んでいる。規模は大きくないが植物の種類が豊富で植物は用途別で基本的に学名順に並んでいる。種子売場でも学名順にならんでいるので探しやすい。 職員の方からプランツセンターの概要について説明をして頂いた。プランツセンターの利潤は RHS の運営に使われている。	 職員からの説明
ウィズレーガーデンの研修生としての経験のある日本人の老川氏に園内を案内していただいた。植物園の役割について国内の植物園、海外の植物園の事例を交えながら詳しい説明をしていただいた。 さらに園内の各重要ポイント、見どころについて詳しい解説をしていただくとともに、学生の質問に対してもひとつひとつ丁寧に答えていただいた。	 ボーダーガーデンの説明を受ける学生
ウィズレーでも子供に対する園芸教育が充実していた。この写真はプランツセンター内の子供向けグッズ売場の様子。見ていて楽しくなるくらい商品が溢れている。プランツセンターの職員の説明では「ここはガーデンセンターでないので資材は充実していない」との説明であったが、子供向け資材は他のガーデンセンターを圧倒する品揃えであった。	 豊富な子ど向け園芸資材